



甲子園短大通信

甲子園短期大学 発行

開式後、木本好信学長から以下のような式辞がありました。『先月十一日、未曾有の大災害を被り、多くの方々が亡くなられ、また行方不明となられました。それに加えて福島第一原発からの放射能漏れという目に見えない恐怖に、いまもつて何万という方々が避難生活を送られています。阪神淡路大震災を経験した私達も人ごとではなく、心より哀悼の意を表する次第です。しかし、こ



四月四日、平成二十三年度入学式は、久米知子理事長はじめご来賓の方々のご臨席を賜り、学院高校講堂において執り行われました。開式に先立ち、三月十一日に起こった東日本大震災の犠牲者に対して全員で黙祷をささげました。

平成二十三年度 入学式



の傷ましい事態のなかであって、世界の人々を感嘆せしめたことは、諸外国では起こりがちな物資の略奪、奪い合いが一切なく、互いに労りあい、助けあう日本人の姿であります。このような日本人の姿は、一三〇〇年前まで遡ることが出来ます。当時、施行された法律『大宝令』のなかの「戸令」第九条には「五家相ひ保れ、一人を長と為せ」とあり、五保という、近くに住む家五軒で保を編成して、責任者の保の長のもとに、互いに助け合う制度がありました。この五保の制度は江戸幕府の五人組の制度へと引きつがれてゆくのです。いま日本は、政治的にも混乱し、経済的にも不況から脱することができず、この度の東日本大震災という大きな困難にも直面しています。しかし、日本人が互いに労りあい、助けあう秩序ある行動をとる民族であるかぎり、必ずや日本の復興は成し遂げられるはずであります。みなさんはそれぞれの分野での専門の知識と技術の習得を目標に勉学に励むことになりませんが、その学生生活を有意義に過ごすための指針として、本学では、建学の精神を掲げています。今年七十周年を迎える甲子園学院の建学の精神とは、学院を創設された久米長八先生が、その理想とする人間教育の信条を集約実践した「黽勉努力」、「和衷協同」、「至誠一貫」の校訓三綱領であります。この校訓三綱領をつねに胸にとどめて、実りある豊かな学生生活を送っていたいただきたいと思えます。今にあ

この輝かしい伝統は、数多くの先輩たちが築いてきたものです。今春卒業した先輩たちの就職決定率も、この経済不況のなか、一〇〇パーセントでした。みなさんも先輩たちの輝かしい成果を目標に、勉学に励まれ、友情を育まれることを期待しています。

これを受け、畠山恵里佳さん(生活環境学科)が新入学生代表としてお礼の言葉と「校訓三綱領である黽勉努力・和衷協同・至誠一貫の教えのもと、人格形成に努めることを誓います。」と宣誓があり、厳粛な中にも和やかに入学式を終えました。

西宮市役所前の六湛寺公園で開催された、第十二回フラワーフェスティバルin西宮において、五月二十一日と二十二日の二日間、被災地支援のための園芸ボランティア活動を行いました。

ポランテア活動では、「手作りポットをつながる輪」として、素焼き鉢にポスターカラーで色付けをしたかわい

フラワーフェスティバルin西宮 園芸ボランティアと ガーデンコンベンへの参加

また、兵庫県立尼崎高等学校においても、小学校教諭や幼稚園教諭などの教育者を目指す二年生を対象に、六月に連携講座を実施しました。

高校生への授業から、教員も新たな見方と考え方を学び、大きな刺激となりました。高大連携講座の内容充実をさらに図り、地域社会と共にすすむ短期大学でありたいと考えています。

短大後援会総会が、五月二十七日午後一時半から、短大二階多目的演習室で開催されました。

大学側から木本学長ほか永藤学長補佐(幼児教育保育学科長)、土橋生活環境学科長、吉井教務部長、新宅就職部長等が出席しました。総会では、後援会会計の決算・予算が承認され、役員改選では、高橋理会長、今西正行会計、辰巳功会計監査が再任され、新たに橋本忠俊副会長、大久保慎司書記、佐藤誠司会計監査が選任されました。

その後、大学から本年度の行事予定や就職状況等の説明が行われ、最後に担任との個別懇談の場がもたれました。

を販売し、売上金と募金併せて二万五千四百三十五円すべてを義援金としました。

義援金は、西宮市社会福祉協議会を通じて、日本赤十字社から被災地に送られます。

制作と販売には、生活環境学科と幼児教育保育学科の学生約八十名が参加し、全学あげての被災地支援活動となりました。

フラワーフェスティバルin西宮では、苗の販売、園芸教室など様々なイベントが開催されており、その中の一に「ガーデンコンベン」があります。

本学の園芸部では、毎年「ガーデンコンベン」に作品を出展しており、今年も「テーマガーデン部門」に二作品、「コンテナ・ハンギング部門」に八作品をそれぞれ出展しました。

園芸部の学生達は、放課後や授業の合間の時間を活用し、出展作品の制作を頑張っていました。「テーマガーデン部門」では、「収穫の喜び」私のキッチンガーデニング」というテーマで出展し、みごと銀賞を受賞しました。

また、「コンテナ・ハンギング部門」では、多くの出展作品がある中、四作品が銅賞を受賞しました。



音楽と花が好き



助教 岡田 準人

最近ではiPodなどの携帯音楽プレーヤーでいつも音楽を聴いている

人が多いですが、私も音楽が大好きです。いろいろなジャンルの音楽を聴きますが、新旧問わず「J-POP」が特に気に入っています。古くは中島みゆきから最近ではコブクロまで、音楽番組などでいいなと思う曲が流れたら、一緒に口ずさみながら番組を見ています。

音楽が好きになったのは、小学生の時の経験が影響しています。両親が釣り好きで、週末にはいつも家族で車に乗って海に出かけていました。その道中、車内で流れていた母親選曲の歌謡曲を聞いていたのが音楽好きのきっかけです。皆さんにもお気に入りの曲があると嬉しいです。私も、楽しいときや気分が落ち込んだ時など、いつも心の中で歌を歌うようにしています。

歌のタイトルや歌詞の中に、様々な花が登場することがよくあります。松田聖子の「赤いスイートピー」や一青窈の「ハナミズキ」など、数多くの曲で花が登場します。私にも、花に関する曲の中で好きな曲があります。SMAPの「世界に一つだけの花」です。槇原敬之が作詞・作曲をし、花屋のワンシーンを通じて個性の大切さを歌った曲です。この曲の歌詞の中にこのようなフレーズがあります。「や」と店から出てきた その人が抱えて

My Favorites

写真は大学院生時代に京都の鞍馬で撮影した杉の巨木です。樹齢が高い木に触れると、いつも人生の大先輩に会っているみたいで気持ち引き締まります。



いた 色とりどりの花束と 嬉しそうな横顔、私はいつもこのフレーズを聞くと、自分が誰かのために花束を花屋さんに買っていく姿を思い出し、うれしい気持ちになります。私はなるべく、後輩の卒業式などがある際には、花束を贈るようにしています。これは、おめでどうの気持ちを伝えるのと同時に、相手の笑顔を見るのが大好きだからです。

皆さんも毎日聞くいろいろな音楽の中で、歌詞の中の好きなフレーズを探してみてください。そうすれば、何気ない日常生活の中にも、大切なことがたくさんあることに気づかせてくれます。

「気づき」というのはすごい能力です。例えば、「芸術家」の持つ才能とは何でしょうか。私は、絵をうまく描くなどの技術的なことだけではなく、「さまざまなものに価値を見いだす力」ではないかと思えます。道端に転がっている石がかわいいと感じることができれば、それも立派な才能だと思います。

毎日が平凡だと感じている人がいるとすれば、ぜひ何気ない日常の風景を少し見つけなおしてみてください。きつと小さな幸せがいっぱい見つかるはずですよ。

高大連携講座が始まりました

本学の地域社会への貢献の一環として、また大学への関心を深めることを目的に、主に高校一、二年生を対象とした高大連携講座を提供しています。依頼を受けた高校へ教員が赴くのが原則ですが、本学での講座も用意してあります。

平成二十三年度の第一回目は、兵庫県立伊丹西高等学校でした。「看護・医療・保育・福祉」分野へ就職しようとする『総合ヒューマン類型』の一、二年生が対象です。

五月二十四日、田島准教授による「保育と介護のコミュニケーション」の授業が二年生対象に行われました。レクリエーション活動を通じて、コミュニケーション能力を高めるという内容で、生徒のみなさんは積極的に参加していました。



釣ると...

引き続き、五月三十一日には、大谷特任助教による「子どもの遊び・手作り遊び」の授業を行いました。子どもの年齢に応じた絵の発達やのりとハサミの使い方や、絵を描く道具の選び方などの講義の後、実際に子どもの発達に応じた作品を作りました。

甲子園短大通信 第71号
(編集・発行)甲子園短期大学広報委員会
〒663107 西宮市林町四一五
TEL:079-815-3300 FAX:079-815-7911
http://www.koshien-c.ac.jp